

(平成29年 6月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	6月の水産物の総入荷量は、漁獲が低調であった魚種が多く、前年同月と比べ、鮮魚、冷凍魚、加工水産物ともに入荷量が下回り、全体で8%下回った。 総取扱金額は、前年同月と比べ、加工水産物は増加したが、鮮魚、冷凍魚が減少しており、全体として3%下回った。 7月は、祇園祭が始まり、はもの最需要期となる。近年は、骨切りされたはもがスーパー等で買い求めやすくなり、手軽に味わえるようになったので御賞味いただきたい。また、今年の土用の丑の日は、7月25日、8月6日の2日間あり、昨年までの2年間不漁であったうなぎの稚魚（しらす）の水揚げがやや回復したことから、うなぎ蒲焼の価格は前年より買い求めやすくなる見込みである。
(区分別の動向) 鮮 魚	6月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ、8%下回り、単価は5%上回った。 品目別には、まあじ、水かれいは入荷量が上回り、単価は下回った。はまち（天然）、けんさきいか、まぐろは入荷量が下回り、単価は上回った。 7月から、小型船によるさんま漁が解禁となり、新物のさんまが徐々に入荷してくる。
冷 凍 魚	6月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ、19%下回り、単価は7%上回った。 品目別には、冷えびは海外の需要が強く、単価が前年同月と比べ上回り、国内需要が低下したため、入荷量は下回った。 7月の冷凍魚は、引き続き海外の需要が旺盛であることから、単価は現状のまま続くことが予想される。また、アメリカのアラスカ海域のさけ漁が最漁期を迎え、8月からは、チリ産養殖さけの新物の出荷が開始される。

加 工 水 産 物	6月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ、6%下回り、単価は8%上回った。 品目別には、塩紅さけは入荷量が上回り、単価は下回った。塩さば、塩銀さけは入荷量が下回り、単価は上回った。 ちりめんは、5月から豊漁となり、良品が増えたことから、入荷量、単価ともに前年同月と比べ上回った。すけそうこは、需要の低下とともに、低価格帯の製品が売れ筋となっていることから、入荷量、単価ともに前年同月と比べ下回った。
------------------	---

※鮮魚には、貝類、淡水魚を含む。

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	京都，三重で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ５７％上回り，単価は２１％下回った。
ま い わ し	鳥取，静岡で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ３％上回ったが，大型サイズが多く脂のりが良いため単価は１２％上回った。
さ ば	千葉，三重で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ１５％下回ったが，小型サイズが多かったため単価は６％下回った。
す る め い か	石川で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ２％上回ったが，需要が多く単価は１２％上回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ１７％下回り，単価は７％上回った。
け ん さ き い か	長崎で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ３４％下回り，単価は２５％上回った。
は も (近)	愛媛，兵庫で水揚げされたものが主体となる入荷で，入荷量は前年同月と比べ３％上回ったが，荷動きが良く，単価は前年並みであった。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	国内外ともに原料となる大型サイズのサバの在庫が少なく，入荷量は前年同月と比べ１５％下回り，単価は４％上回った。
冷 す る め い か	新物は小型サイズが多く，大型サイズの国内在庫が少なく，入荷量は前年同月と比べ５５％下回り，単価は７２％上回った。

(加工水産物主要品目)	
塩 さ け	入荷量は前年同月と比べ 6 % 上回り，価格は 1 3 % 上回った。 魚種別では，塩紅さけの入荷量は前年同月と比べ 3 0 % 上回り，単価は 2 % 下回ったが，塩銀さけの入荷量は 1 1 % 下回り，単価が 2 6 % 上回った。
身 欠 に し ん	入荷量は前年同月と比べ 1 5 % 上回ったが，単価は前年並みであった。